

教宣 せぶん

立場を越えて、いま立ち上がろう！

18世紀後半にイギリスで産業革命が起こり、やがて欧米に資本主義が急速に発展し、大企業がその国の経済を支配するようになりました。イギリス・ロシア・フランス・ドイツ・アメリカなどの国ですが、これらの国は列強と呼ばれ、軍事力と経済力を背景に世界に進出しました。これらの欧米列強は、資源や市場を求めてアジアやアフリカへの経済進出を強め、やがて軍事力によってこれらの国々を植民地としていきました。このような動きを帝国主義といいます。

これは中学校の教科書にのっている近代史の一部です。こういう世界的な流れの中で、鎖国を続けていた日本もアメリカに開国を迫られ、260年間続いた江戸時代は幕を下ろしました。明治維新です。やがて日本でも産業革命が起こり、三井・三菱・住友・安田などの財閥が成長し、日本経済を支配していきます。軍事力と経済力を兼ね備えた日本も、欧米列強と同じように、隣国の韓国や中国に対し「帝国主義」を押し進めていったのです。

歴史の勉強はさておき、いま私たちにもこれと同じ「帝国主義」が覆いかぶさってきています。合併前、自由化時代を迎えどの会社もこぞって事業費率の改善目標を掲げていました。当時の東海社の目標は34%台だったと記憶しています。日動社と合併した新会社は、当然のことながら収保である分母が増えました。合併に伴う「片寄せ」で、旧日動社で働いた内務社員が辞めていきます。東海社との合併を決断させ重要ポストを与えていた役員のクビを切ることに成功すると、思うような施策を遠慮・会釈なしにできるようになり、かねてから頭痛の種の直販社員部門をバッサリと切ろうとしています。これで残った旧日動の内勤社員に対するリストラを体よくすすめれば、東海社は何も変えずに、やすやすと目標の事業費率の改善に成功するのです。しかも収保はもとより良質な資産も、飛躍的に伸ばしてです。自らの目標達成のために、他を食い物にするやり方は、「帝国主義」も「合併」も何ら変わりありません。

時代が動いて、いま植民地と呼ばれる国はなくなりました。それは植民地と呼ばれた国々の民族が立ち上がり、支配する列強に対し、独立運動を起こしたからです。「帝国主義」に対し反旗をひるがえし、たたかったからです。私たちも、いま所属する組合の立場を越えて、「N」の民族意識に火をつけて、「帝国主義」を押し進める東海経営に対し、立ち上がろうではありませんか。